

雑誌名および発行元変更のお知らせ

九州ルーテル学院大学心理臨床センター（旧発達心理臨床センター）は、自閉スペクトラム症やダウン症児・者に対する発達支援を中軸に、いじめや不登校、虐待、心身の病などで苦しむ人々へのカウンセリングや支援など、広く社会的なニーズに応えるための本学附属施設として1999年4月に設置されました。設置以来17年間、心理学、特別支援教育、精神保健福祉を専門とする本学心理臨床学科の教員がセンタースタッフとなり、教員や学生の実践研究の場、および本学建学の精神である「感恩奉仕」を体現する場としての機能を担ってまいりました。2014年7月、近年のころとそだちの問題への支援に対する社会的ニーズの高まりに応えるため、大学に附置施設ころとそだちの臨床研究所が設置されました。それに伴い、2017年4月よりころとそだちの臨床研究所に心理臨床センターの機能の一部を統合し、センターを発展的に解散することとなりましたので、ご報告いたします。

九州ルーテル学院大学心理臨床センターでは、教員や学生の実践活動や研究活動を学内外の皆様適切に認知していただくことを目的として、2002年より年1回の「九州ルーテル学院大学発達心理臨床センター年報」の刊行を行ってまいりました。2009年（第8号）の「九州ルーテル学院大学心理臨床センター紀要」への誌名変更、2011年（第10号）の「応用障害心理学研究」への誌名変更と査読制の導入を経て、2017年3月までに計16号の雑誌を刊行しております。2017年4月の心理臨床センターの解散を受け、第17号以降の刊行は、九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科を発行元として継続していく予定です。

今後の雑誌の在り方について心理臨床学科内で議論を重ねた結果、（1）心理臨床関連諸機関の幅広い研究者からご投稿いただけるよう、雑誌名を「応用障害心理学研究」から「心理・教育・福祉研究」に変更すること、（2）電子ジャーナル化することにより読者の利便性を高め、刊行コストを削減すること、（3）掲載論文の質向上のため査読付きの「原著」を継続するとともに、研究成果の迅速な公開が可能となるよう査読なしで掲載可能な「資料」を新設することになりました。心理臨床関連領域の発展に貢献できる雑誌となるよう、引き続き鋭意努力していく所存です。今後とも学内外の皆様からのお力添えとご鞭撻をお願い申し上げます。

2018年2月吉日

雑誌「心理・教育・福祉研究」

編集委員長 和田由美子